

■ 令和7年9月2日 総務警察委員会県内調査

1 奈良県警察学校（奈良市今市町585）

【調査目的】警察官・警察職員への警察教養について

【調査概要】

＜概要＞

○警察教養について

警察教養は、警察学校における警察教養「学校教養」及び職場における警察教養「職場教養」のそれぞれの特性を活かし、かつ、両者を適切に関連付け、全体として計画的に実施する。（奈良県警察教養細則）

（1）学校教養について

学校教養とは、警察職員が採用されたとき、昇任するとき、その他一定期間職場を離れて集中的に教養を行うこと。充実した育成メニューによりキャリア形成支援や実務能力向上に努めている。

①採用時教養

- ・「一人立ちできる地域警察官の育成」「捜査書類作成能力等捜査実務能力を身につけた地域警察官の育成」「現場執行力を有する地域警察官の育成」を学校教養の三本柱としている。
- ・採用時教養は「初任科」といい、大学卒業資格で6ヶ月、高校（短大等含む）卒業資格で10ヶ月間。「初任科」卒業後、職場実習が3ヶ月間、それぞれの警察署（現場）で初任の教養を受講する。その後、「初任補修科」として、再度警察学校に戻り、現場を体験した上での補足の教養を受けることになる（大卒資格者で2ヶ月間、高卒資格者で3ヶ月間）。「初任補習科」卒業後は、実践実習として、再度警察署に戻りそれぞれ4ヶ月と5ヶ月の教養の履修を終えて、「初任科」教養が終わる。通算、大学卒業資格者で15ヶ月間、それ以外（高校、短大、専門学校卒業者）で21ヶ月間の教養期間を終えて、一人前の警察官として現場に配属される。
- ・「初任科」及び「初任補修科」は全寮制となっている。

②任用科・専科

- ・任用科として「警部補任用科」「刑事任用科」、専科として「警察安全相談」「被害者支援専科」「術科指導者専科」を設けている。

（2）職場教養について

若手警察官育成支援プログラム（採用時教養終了後1年間）のほか、各種研修、講習等（トップ・マネジメント・セミナー、実習指導員教養等）を実施している。

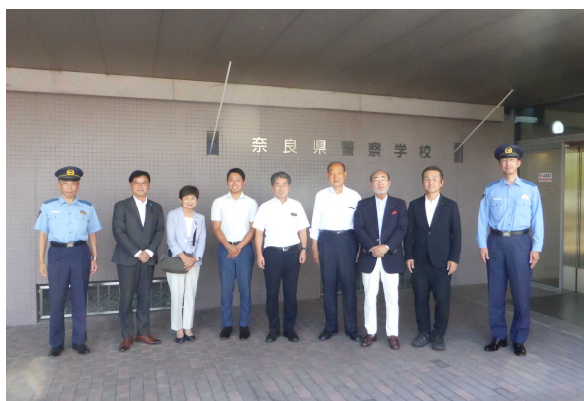
【現状・課題】

○採用（優秀な人材の確保）

- ・年に2回（概ね3月及び8月）、「一日体験入校」を実施。授業・施設の見学、体験を通して、警察官という職業への興味と関心を醸成させるとともに、警察学校での入校生活に対する不安を軽減し、真に警察官にふさわしい優秀な人材の獲得を図っている。

○メンタルヘルス対策

- ・入校直後から担任教官、副担任教官による面談を行い、個々の学生の不安の解消に努めている。特に、不安感の強い学生については、警察本部厚生課所属の臨床心理士による面談を受けさせる等して不安の解消を図っている。



2 天理市役所（天理市川原城町605）

【調査目的】SDGs達成に向けた取組について

【調査概要】

<概要>

○オーガニックビレッジ宣言について

天理市は、令和6年5月にSDGs未来都市として認定された。高原・福住を中心として有機農業の推進による地方の再生を目指し、「オーガニックビレッジ」を宣言している。

個人農業者、大学、企業等と連携し、人材育成、様々な産業創出、活躍の場づくりを進めるとともに、持続可能な「農」のプラットフォームを構築することにより、稼ぐ力の向上、販路拡大、自然との共生を図っている。

(1) 里山三年晩茶

以前の福住地域は、少子高齢化、担い手の不足等により茶畑の多くが放棄地となっていた。一方で、脱炭素社会・循環経済への転換が求められる中、放棄されている間に化学肥料や農薬が抜けた茶園は、微生物が活動する有機農業の適地であるため、敢えて剪定せずに育てたお茶「里山三年晩茶」を開発し栽培を始めた。また、茶畑の傍らでハーブの栽培を推進し、ブレンドティーの開発も行っている。

(2) 大和ルージュ

大和農園が開発した、赤いスイートコーン品種である。無農薬により栽培されており、花びら状にカットした「フラワーカット」など、販売方法にも工夫をしている。令和7年5月に万博会場における食ブースに出品した。また、米粉と大和ルージュを使ったクッキーや、里山三年晩茶とブレンドしたお茶も開発している。

(3) 循環型農業の取組

全て使い切る循環型農業を目指し、「無印良品」との連携により、平飼いの養鶏所を計画している。完全オーガニックの卵により、新たな価値を持たせる。行政が大手企業の販路を確保することにより、農業者との橋渡しを担っている。

(4) その他の高付加価値化

適切に発酵した堆肥を使ったプレミアム有機米や、それを用いた酒造りを推進。薪作りによる混合林への誘導、「里山三年晩茶」を収穫した後の木を原料にした炭作りなど、様々な取組を実施している。

(5) 椽（たるき）

市と連携・協力し、福住地区（福住町・山田町・長滝町）への移住・定住の希望者と、空き家所有者など、受け入れる地域側とのマッチング・サポートを行っているボランティア団体である。相談、情報提供、不動産会社との仲介など相互コミュニケーションの円滑化を図り、「幸せな移住」の実現を目指して活動している。

(6) イチカプラス

デジタル地域通貨「イチカ」の取組の一つで、イチカ加盟店での利用が市内の支え合い活動に寄附される仕組み。環境活動等にイチカポイントを付与することで、イチカの使用が地域の支え合いと、より良いまちづくりにつながるよう、消費活動を促す。

